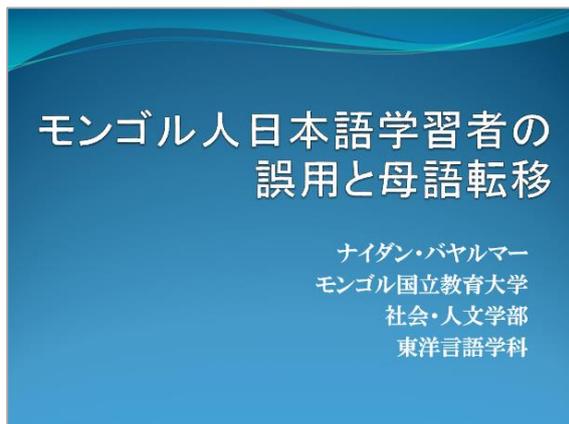


発表②

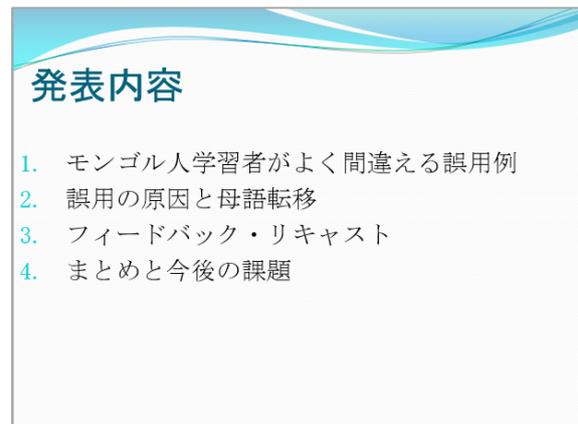


「モンゴル人日本語学習者の誤用と母語影響」

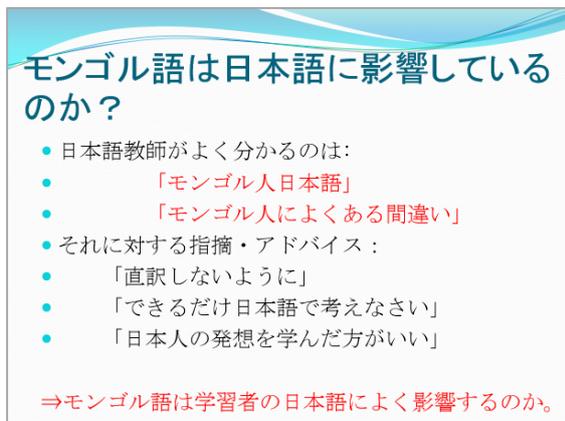
N. BAYARMAA
モンゴル国立教育大学



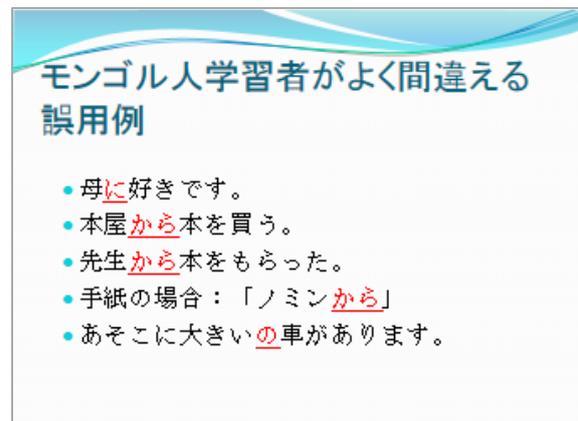
1



2



3



4

- いすに乗ってください。
- 雪で滑ってしまいました。
- 友達の誕生日になります。
- ゆうべ母が電話しました。
- 病気です。

- はじめまして・おはよう・ざっし・てがみ

↓

母語転移？

5

転移とは？

- 大関・白井（2010：25）：人は新しい言語を母語とは別にゼロから学ぶ訳ではなく、母語知識をフルに活用しながら外国語を学ぶ。
- **転移**：何かで身につけた能力が、他のことに利用されたり、影響したりすること。

6

母語転移

- 「**正の転移**」：学習者の母語の知識によって習得が促進される場合。
→母語と目標言語との表し方が似ている場合
→似ている言語同士＝「言語間の距離」が近い場合
- 「**負の転移**」：母語知識を使うことがマイナスに働いてしまう場合。
- 「母語の干渉」→「母語転移」

7

- 母に好きです。
- 本屋 から 本を買う。
- 先生 から 本をもらった。
- 手紙の場合：「ノミン から」
- あそこに大きい の 車があります。

助詞の間違い

- いすに乗ってください。
- 雪で滑ってしまいました。
- 友達の誕生日になります。
- ゆうべ母が電話しました。
- 病気です。

語彙選択

- はじめまして・おはよう・ざっし・てがみ

発音の間違い

試用判断が難しい

↓

- 母語転移「文法・語彙・発音・談話の展開」

8

発音

- 母語の影響が大きい領域である。
モンゴル語：男性母音・女性母音
→男性語・女性語

⇒はじめまして・おはよう・ざっし・てがみ

- ▶発音指導は徹底的で、集中的に、しかも長期的に行うこと。
- ▶産出を促す前にたくさん聞かせること。

9

語彙の意味

- 言語転移は、母語と目標言語の間に対応物が見つけやすいところに起こりやすい。
- I:昨日どうしたんですか。
S:昨日、病気でした。
- S:みんなで、お昼食べます。先生も食べたいですか。
• (「先生も一緒に食べてほしい」という意味で使っている。)

10

語彙の意味・談話領域

- ことばは、文法的に正しいかとは別に、社会的なコンテキストの中でその時の状況や聞き手が誰かなど様々なことを考えて適切に使う必要がある。
- 母語のコミュニケーション・スタイル、文化的背景の他に、語彙や文法面での転移による**語用論的転移**もある。

11

典型性の影響

- 学習者がある使い方が典型的、つまり基本的な使い方だと感じる場合転移させるが、典型的でないと感じると転移させない。
- いすに**乗ってください**。
- **雪で滑って**しまいました。
- 友達の**誕生日**になります。
- 語彙の意味や使用について、教師は早い段階から意味が違っていることを知らせ、両言語に違う部分があることを認識しながら母語知識を有効に活用できるように**指導していく**ことが重要。

12

フィードバック

- 学習者のアウトプットに対して、何らかの反応を示し、誤用訂正を行うことをいう。

(大関・白井 (2010: 105))

	正用提示	学習者に修正を促す
明示的	学習者: 寒かったです。 教師: 「寒かったです」、 です、ですね。	学習者: 寒かったです。 教師: 「寒かったです」、 でいいですか。
暗示的	学習者: 寒かったです。 教師: あ、そうですか。 寒かったですか。 リキャスト	学習者: 寒かったです。 教師: 寒かったです?

13

まとめ

- 母語を利用することが習得の邪魔になるわけではなく、利用して失敗してしまったときに利用してしまうことが、習得を邪魔する。
- 学習者に必要なのは、母語を利用しないことではなく、母語の知識がどこで利用できて、どこで利用できないかを知り、その上で活用できるところには大いに母語知識を活用すること。
- 教師に必要なのは、第二言語習得は母語を基準にして進むこと、母語知識を利用することそのものが悪いことではないことを知っておくこと。

14

今後の課題

- モンゴル人学習者が日本語をどのように習得しているのかをあらゆる面で長期的に調べ、明らかにすること。
- そのため、第二言語習得研究をともに朗読すること、協働研究をすることが重要である。
- **ご興味のある方はぜひお誘いください。**

15

Ашигласан ном

- 大関 浩美・白井 恭弘 (2010) 『日本語を教えるための第二言語習得論入門』 くらしお
- 小柳かおる (2004) 『日本語教師のための新しい言語習得概論』 スリーエネットワーク
- 迫田久美子 (2002) 『日本語教育に生かす第二言語習得研究』 アルク

16



17

